

診断の重要性高まる

診断士が各地で活躍

既存の建造物の耐久性が高まっている。

性を確保するうえで調査診断業務は非常に重要

なウェートを占める。構造物の状態を正しく見極めて、耐久性を確保するための補修・補強方法を判断する役割を担うことのできる存在としてコンクリート診断士の重要性

が高まっている。日本コンクリート工学会(JCI)は、診断・維持管理に関わる幅広い知識を持った技術者の養成を目的に01年度からコンクリート診断士試験制度を創設し、今日までに1万人近くの合格者を輩出している。全国各地でコンクリート診断士の重要性

が高まっている。リート診断士資格保持者が建造物の診断業務を行い、品質の向上に貢献するケースも出てきている。

長野県では生コン工事場所の診断士で構成する「ながのコンクリート診断士会」がひび割れなど施工時の初期不良のクレーム処理

に対応している。長野県発注の土木物件を中心に50件超のクレーム処理実績がある。コンクリートの専門知識だけだけでなく、施工にも通じた幅広い知識を持つており、不良の原因の究明から補修・補強方法の決定まで総合的な判断ができる存在として、施工者からの相談にに応じて建造物の高耐久化に貢献している。

日本海側で塩害など厳しい劣化環境下にある福井県では、橋梁長寿命化計画策定業務などでコンクリート診断士資格が要件化されている。施工時に初期ひび割れが生じた場合には診断士によるひび割れ診断報告書の提出が義務付けられており、診断士資格者は報告書作成業務などで大きく貢献している。福井県

は定期的に研修会を実施し、診断士の養成に努めている。

日本海側で塩害など厳しい劣化環境下にある福井県では、橋梁長寿命化計画策定業務などでコンクリート診断士資格が要件化されている。施工時に初期ひび割れが生じた場合には診断士によるひび割れ診断報告書の提出が義務付けられており、診断士資格者は報告書作成業務などで大きく貢献している。福井県

は定期的に研修会を実施し、診断士の養成に努めている。